

# サンプルコードにおける太陽光発電モジュールの直並切替問題

Ver. 2014011415

Takashi Okamoto (takashi@faculty.chiba-u.jp)

## 1 はじめに

本サンプルコードでは、文献 [1] で定式化された太陽光発電モジュールの直並切替問題とは少し異なる記号と定式化を用いている。本稿では、実装に用いた定式化について説明する。

## 2 定式化

モジュール  $n$  の電流の大きさを  $x_n^i \in \mathbb{R}, n = 1, \dots, N$  とし、層（並列接続されたモジュール群） $k$  の電圧の大きさを  $x_k^v \in \mathbb{R}, k = 1, \dots, K$  とする。

モジュール  $n$  とモジュール  $n + 1$  間の接続方法を  $y_n \in \{0, 1\}, n = 1, \dots, N - 1$  で表し、 $y_n = 0$  で並列接続、 $y_n = 1$  で直列接続とする。 $\mathbf{y}$  は、1 を区切りとして、0 の連続で 1 つの層を表す。たとえば、 $\mathbf{y} = (0, 0, 0, 0, 1, 0, 0, 1, 0, \dots)$  は、モジュール 1 からモジュール 5 ( $n = 1, \dots, 5$ ) が第 1 層 ( $k = 1$ ) を構成しており、モジュール 6 とモジュール 7 ( $n = 6, 7$ ) が第 2 層 ( $k = 2$ ) を構成していることを表す。このとき、モジュール  $n$  と層番号  $k$  を結びつける関数としては

$$k(n, \mathbf{y}) = \begin{cases} 1 & (n = 1) \\ 1 + \sum_{m=1}^{n-1} y_m & (n > 1) \end{cases} \quad (1)$$

が考えられる。また、 $k(n)$  の逆関数に相当する  $K$  個のモジュール番号集合

$$\mathcal{N}_l(\mathbf{y}) = \{n \mid k(n, \mathbf{y}) = l, n = 1, \dots, N\}, l = 1, \dots, K \quad (2)$$

を定義する。

上述の決定変数を用いて、太陽光発電モジュールの直並切替問題は

$$\underset{\mathbf{x}^i, \mathbf{x}^v, \mathbf{y}}{\text{maximize}} \sum_{n=1}^N x_n^i x_{k(n, \mathbf{y})}^v \quad (3a)$$

$$\text{subject to } 0 \leq x_n^i \leq I^{MM}, n = 1, \dots, N \quad (3b)$$

$$0 \leq x_k^v \leq V^{MM}, k = 1, \dots, K \quad (3c)$$

$$f(x_n^i, x_{k(n, \mathbf{y})}^v) = 0, n = 1, \dots, N \quad (3d)$$

$$\sum_{n=1}^{N-1} y_n + 1 = K \quad (3e)$$

$$V^{Sm} \leq \sum_{k=1}^K x_k^v \leq V^{SM} \quad (3f)$$

$$I_k(\mathbf{x}^i, \mathbf{y}) = I_1(\mathbf{x}^i, \mathbf{y}), k = 2, \dots, K \quad (3g)$$

$$0 \leq I_k(\mathbf{x}^i, \mathbf{y}) \leq I^{MM}, k = 1, \dots, K \quad (3h)$$

$$0 \leq \sum_{n \in \mathcal{N}_k(\mathbf{y})} I_n^{SC} \leq I^{MM}, k = 1, \dots, K \quad (3i)$$

$$\text{where } k(n, \mathbf{y}) = \begin{cases} 1 & (n = 1) \\ 1 + \sum_{m=1}^{n-1} y_m & (n > 1) \end{cases} \quad (3j)$$

$$\mathcal{N}_l(\mathbf{y}) = \{n \mid l(n, \mathbf{y}) = k, n = 1, \dots, N\}, l = 1, \dots, K \quad (3k)$$

$$f(x_n^i, x_k^v) = \begin{cases} 0 & (x_n^i \geq I_n^{SC} \text{ and } x_k^v = 0) \\ 0 & (x_k^v \geq V_n^{OC} \text{ and } x_n^i = 0) \\ \left( I_n^{SC} - \frac{V_n^{OC} - R_n^S I_n^{SC}}{R_n^{SH}} \right) \frac{1 - \exp\{C_n(x_k^v + R_n^S x_n^i - V_n^{OC})\}}{1 - \exp\{C_n(R_n^S I_n^{SC} - V_n^{OC})\}} & (\text{otherwise}) \\ -\frac{x_k^v + R_n^S x_n^i - V_n^{OC}}{R_n^{SH}} - x_n^i & \end{cases} \quad (3l)$$

$$I_k(\mathbf{x}^i, \mathbf{y}) = \sum_{n \in N_k(\mathbf{y})} x_n^i \quad (3m)$$

と定式化される。この定式化での問題のサイズは、連続決定変数の数  $N_x = N + K$ 、離散決定変数の数  $N_y = N - 1$ 、目的関数の数  $P = 1$ 、不等式制約条件数  $M = 2N + 6K + 2$ 、等式制約条件数  $Q = N + K$  となり、文献 [1] の値を代入すると、 $N_x = 63$ 、 $N_y = 53$ 、 $P = 1$ 、 $M = 164$ 、 $Q = 63$  となる。

### 参考文献

- [1] 林孝則：「太陽光発電モジュールの直並切替と混合整数最適化問題」，平成 26 年電気学会全国大会講演論文集 (2014)